

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和3年度第3回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	令和4年2月25日(金) 13時30分～15時00分
開催場所	WEB会議(来場者用:四番丁スクエア1階第1会議室)
議 題	(1) 令和2年度高松市伝統的ものづくり振興事業補助金 成果発表 (2) 令和3年度事業報告 (3) 令和4年度事業計画(案) (4) 高松盆栽振興事業 (5) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	公開
出席委員	本多委員、谷委員、穴吹委員、井藤委員、英委員
傍聴者	1人            (定員 3人)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過および審議結果

(事務局)  
高松市伝統的ものづくり振興審議会規則第3条第2項の規定により、会議成立の報告。

議題(1) 令和2年度高松市伝統的ものづくり振興事業補助金成果発表

**【販路開拓事業】**  
自社ブランド「初乃」の「保多織パジャマ」の販路開拓

～採択者より報告～

(委員)  
ギフトとして考えると、パッケージがどのような状態で届くのか見えた方が贈りやすい。その点もサイトに気を配ると良いのではないか。

**【販路開拓事業】**  
讃岐のり染 製品「mimai」のPRや販路開拓

～採択者より報告～

(委員)  
どのように遊ぶのか、伝わりにくい製品だとは思いますが、それを動画で綺麗に撮って説明できている。

## 審議経過および審議結果

### 【ブランド力向上事業】

鷲ノ山石製アロマストーン製作プロジェクト

～採択者より報告～

(委員)

今回の製品が、会社自体の広報力を高めるための物なのか、商品として売りたいのか、そこが曖昧であると感じた。

### 【3事業全般について】

(委員)

Instagramを活用し切れていないのではないか。Instagramからオンライン販売に飛べるようにするなど、買ってもらいたい世代に響くための広報手段をもう少し取るべき。

(委員)

最近SNS上で物を売る事ができる。簡単にECサイトを立ち上げる仕組みもかなりあるので、お試しいただければ。無料でオンラインセミナーも数多く開かれているので聞いてみるのも良いのではないか。

議題（2）令和3年度事業報告

～事務局より説明～

議題（3）令和4年度事業計画（案）

～事務局より説明～

※会長からの提案により、議題（2）、議題（3）合わせて説明、質疑応答となった。

### 【伝統的ものづくり夏休み親子体験教室について】

(委員)

令和3年度に応募者が大きく増加した理由は検証されたか。

(事務局)

新型コロナウイルスの影響のため、イベントが中止になったり、県外に出かけにくくなったりしたことにより、市内のイベントに注目が向いたのではないかと推測している。

(委員)

コンテンツによっては、少し大人向けかと感じるものもあり、子どもでも知っているようなアイテムにする等、工夫をしていただきたい。

### 【伝統的ものづくり学校巡回教室について】

(委員)

なるべく多くの学校に平等に機会があると良いと考えている。

(委員)

個人的に、高校生にワークショップをする機会があったが、高校生の方

が手応えが違ふし、アウトプットも全然違ふと感じた。高校生を対象とする方が、職人や、マーケットにとっても得られるものが大きいのではないかと思う。子どもの頃からこういう勉強を体験してもらうのは、必ずしも小学生ではなくても良く、高校もピックアップしてはどうか。

【伝統的ものづくり振興事業補助金について】

(委員)

令和3年度の追加募集に応募が無かった結果もあり、補助金の魅力や優位性が、他の補助金と比べて少し無いのではないか。

(委員)

補助制度の認知度が低いと感じる。補助制度を含め、事業者に情報が足りていないため、補助金の宣伝も兼ねた勉強会を開催してはどうか。

【伝統的ものづくり振興事業補助金及び伝統的ものづくり産業発展事業補助金について】

(委員)

事業内容が新商品開発に偏っているのではないか。本来であれば、事業者にとっては担い手の育成の方が逼迫した問題であると思っている。後進の指導等に補助を使うよう事務局として誘導できないのか。

(事務局)

振興事業補助金について、以前より皆様から応募件数が少ないので事業者働きかけてはどうかといったご意見もいただいているため、令和4年度募集の際、お声掛けできる事業者を探す等、検討したい。

【たかまつ工芸ウィークについて】

(委員)

令和3年度は、穴吹邸にて工芸品の展示を行ったが、生活の場に置いて展示すると、店頭と並んでいる場合とは全然違った見え方がして面白く感じた。今年は瀬戸内国際芸術祭があるため、工芸ウィーク期間だけでは無く、前広に、様々な宿泊施設と連携し、工芸ウィークのカードと共に1作品だけでも展示してもらってはどうか。

(委員)

令和3年度は、初めて大学生にInstagramチームを作ってもらい、共に事業を行った。高校生や大学生等に入ってもらふ事で、就業が近い層と話ができて、職人、事業者にとっても実のある事業になると感じており、工芸ウィークの場を使ってつなげていきたいと思っている。教育の側からも今後意見を聞いていきたい。

議題(4) 高松盆栽振興事業

～事務局より説明～

(委員)

あるワインバーで正月三が日に盆栽を借りて飾ったところ、盆栽の圧倒的な存在感に驚かれ、お客さんからの反響も非常に高かったという事があった。盆栽を発信したいからと盆栽雑誌に掲載するのではなく、盆栽のポテンシャルが分かりそうで、盆栽とは別の属性の方をターゲットに広報をするのはどうか。

議題（５）その他

（委員）

宿泊の商品造成を行う中で、欧米豪向け、中国の富裕層、好奇心旺盛なミレニアル世代では、きらびやかさより、海の開放感や自然へのニーズが高まっており、価値観が非常に変わってきていると感じている。新しい視点での商品開発が非常に良いタイミングであり、盆栽事業者と宿泊事業者がコラボした観光商品など、情報収集して新たに着手するチャンスではないかと思う。

（委員）

予算が少なくなってきており、お金の使い方、特に補助金に関して、見直しがそろそろ本当に必要かと思う。

新型コロナウイルスの影響で、外国の人が呼べないといった影響が出ているが、これから主流になるだろうメタバース等の世界で、様々な物を展示や発表し情報発信すること、また、Eコマース等、伝統的ものづくり審議会も、新しい世代を狙って、ある程度今後はデジタル化を志向しても良いかと思う。

（オブザーバー）

オブザーバーの皆様から御意見等をいただく。